
日本科学者会議
京都支部ニュース 6月号 No.340

2012年6月12日発行

〒604-0931 京都市中京区二条通寺町東入榎木町 95-3 南館 3 階

Tel/Fax : 075-256-3132

E-mail : kyoto_kagakusha_2@yahoogroups.jp

URL : <http://web.kyoto-inet.or.jp/people/jsa-k/>

ゆうちょ銀行振替口座 加入者名：日本科学者会議京都支部 口座番号：01050-6-18166

・・・・・・・・ 目 次 ・・・・・・・・

京都支部第 46 回定期大会報告 (5/20)	2
日本科学者会議 43 回定期大会の報告 (5/26)	3
第 43 回定期大会に参加して (5/26)	3
第 43 回定期大会に参加して (5/26)	4
「春の学校 in あいち」に参加して (3/22)	5
JSA 春の学校に参加して (3/22)	6
関西技術者研究者懇談会 6 月例会報告 (6/3)	6
『日本の科学者』読書会 6 月例会報告 (6/8)	7
◆研究会や行事などの案内◆	
JSA 若手「夏の学校」2012 のご案内	8
『21 世紀社会の将来像と道筋』学習会	8
『日本の科学者』読書会 7 月例会	8
支部幹事会だより (6/8)	9
大飯原子力発電の再稼働に反対する〈決議〉	10
橋下・維新の会への批判、追究は喫緊の課題〈寄稿〉	11
編集後記	12
JSA 近畿地区の催し物案内「JSA 近畿 No. 44. 40」	
2011 年度決算報告・2012 年度予算	

2012 年度会費、まだの方は、同封の振込用紙でお振込み願います。
2010 年度、2011 年度滞納の方の全国会費は、会員権保持のため、
毎月支部経費で立替えて上納しています。早急に納入してください。

以下の日程で開催された。

日時：2012 年 5 月 20 日 13：30～17：00

場所：キャンパスプラザ京都 6 階 龍谷大学
サテライト教室

1. 事務局長の開会宣言
2. 議長に幹事会から細川孝さんと代議員から石倉康次さんを選出。出席代議員を確認し、大会が成立していることを認めた。京大経済 1/1 名、京大宇治 1/1 名、京大医学 1/1 名、立命教員 5/5 名（うち 1 名委任状）、立命院生 0/1 名、龍谷 2/2 名、府立大 0/1 名、京都工繊大 1/1 名、橘 0/1 名、個人懇 15/15 名、合計 26/29 名。他に代表幹事と事務局長が出席。
3. 2011 年度活動について事務局長が報告した。各分会からそれぞれ現状を報告した。討論の中で、日常的に会員相互が討論できる場としての Web の活用などの提案があった。
4. 活動報告は反対 0、賛成 26、保留 0 で承認された。
5. 2011 年度財政について鈴木幹事が報告した。特別会計から 35 万円余を借入したこと、『日本の科学者』2011 年 6 月号の売り上げが 12 万円余あったこと、若手カンパが約 14 万円あったことなどが報告された。会計規模は約 480 万円。うち 230 万円は本部会費である。特別会計からの借入金は返還せずに一般会計に組み入れて、次年度繰越金は 30 万円であった。
6. 会計監査の由井浩さんが会計は適正であったと報告した。
7. 財政報告は反対 0、賛成 26、保留 0 で承認された。
8. 10 分の休憩の後、15:15 より議事を再開。
事務局長より支部会則の改正が提案された。

- ポイントは従来の職場別分会と個人会員懇談会を廃止して、新たに任意参加の職場別、階層別、地域別、専門別等の分会を置くこと、ならびに大会を代議員制から全員参加制に、幹事を分会推薦制から立候補制にそれぞれ改めることである。
9. 活発な討論がなされた。分会の位置づけが不明であるとの指摘がなされた。名称をたとえば部会などにしたらどうか、従来の分会で活動できる分会は残したらどうか、など。
 10. 第 3 条 3 項の「幹事」を「支部幹事」に、第 3 条 4 項の「実出席者」を「出席者」に、第 5 条 3 項の「置く」を「おく」に、第 9 条の「実出席者」を「出席者」に、付則 2 の「改正箇所を下線で示した。」を削除する。以上の修正を行って採決した結果、反対 0、賛成 25、保留 1、で承認された。
 11. 2012 年度活動方針について事務局長から提案があった。会則改正に伴う活
 12. 動スタイルについてさまざまな討論があった。原発問題特別委員会の総括が不十分であったこと、科学・技術フォーラムが活動停止したこと、などの指摘があった。討論の結果、反対 0、賛成 25、保留 1 で活動方針を採択した。
 13. 2012 年度財政方針について鈴木幹事より提案された。反対 0、賛成 26、保留 0 で採択した。
 14. 事務局長より 2012 年度支部役員について推薦名簿に基づいて支部幹事、会計監査、全国参与、全国幹事が推薦され、全国指名の代表幹事、常任幹事の紹介があった。満場一致で承認された。続いて第

- 43 回全国定期大会の代議員として、前田耕二さん、山口進次さん及び宗川吉汪さんの3人が推薦され承認された。
15. 宗川幹事より 2012 年度幹事会は 2011 年度と同じ体制で臨むとの報告があった。
16. 宗川事務局長が役員を代表してあいさつを行った。新しい分会の活動が支

- 部の運命を決するとの指摘がなされた。
17. 特別決議は特になく、予定通り 17 : 00 に終了した。
18. なお、大会の出席者は、代議員 26 名（うち委任状 1）の他に、会計監査 1 名、傍聴者 2 名、代議員でない幹事 2 名、であった。

日本科学者会議第 43 回定期大会の報告

48 期全国常任幹事 富田道男

大会初日の 5 月 26 日（土）、午前 11 時から今期 2 回目の幹事会が開かれ、事務局から提起された大会諸議案・決議案などが審議・決定された。

前回議事要録承認等のほか、主な議題は、第 43 回定期大会代議員数および 48 期役員定数と次期幹事の推薦、48 期参与の推薦、第 43 回定期大会議案書の活動報告・活動方針案の承認、同大会決議案の承認、などであった。

決議案の議論では、JAXA（宇宙航空研究開発機構）法改悪に対して、学問の自由と反戦平和の観点から、科学者会議は何らかの意思表示をするべきである、との意見が出された。もっともな意見であるがしかし、決議案の素案は 1 週間以上前に事務局から全幹事に送付され、内容は承知していたはずである。事前に事務局に通告するなり、決議案を幹事会に提案すればよいではないかと思ったのは、自分ひとりだろうか。

大会の議論では、今回も原発を巡るものが最も強く印象に残った。幹事会提起の議案書の 48 期（2012 年度）活動方針の冒頭部分に書かれている「原発の再稼働を許さず、原発をなくし、原発に依存しない社会

を築く、・・・」に対して、原案賛成・修正要求の議論の後、東京支部の代議員から修正動議「原発の再稼働を許さず、原発を破棄し、原発のない社会を築く、・・・」が提案された。これに賛同する代議員が複数あったので、動議に対する採決が行われた。代議員定数 60 のうち出席 53 名による採決の結果、議長を除く過半数 27 に対して賛成が 21 票で否決され、直後の原案採決では、反対はなく、保留 5、賛成 47 で採択された。これらの文章表現に時間をかけて多くの議論が行われたが、これにより運動にどのような違いが生じるのか私には理解できなかった。原案賛成が 47 票あったことから、代議員の多くも同様の印象を持ったのではないだろうか。

二つ目に強く印象に残ったことは、組織強化の議論で、大会を会員増で迎えることができたとの組織部長の報告があり、会場が大いに沸いたことである。

三つ目の印象は、5000 名回復を目指して 3 年間限りの募金活動を展開してきた米田事務局長が留任して頑張るとの意思表明だった。

第 43 回定期大会に参加して

工繊大分会 前田耕治

大会 2 週間前くらいに急きょ、代議員および議長になってほしいという要請があり、

支部大会に出られなかったことも受けることにした。京都支部の代議員として 3 回目

の大会出席であった。また、議長団席に座るのは2回目であった。議長団のなかで、私が一番年長であり、北海道からは若い男性教員、東京支部からは20名の女性会員が選ばれ、若い議長団であった。動議や不規則発言など、混乱のないことを願うばかりであった。執行議長は、1日目は私が、2日目の午前を東京支部の方が、午後の採決を北海道の男性が分担した。若い2人は実にしっかりしており、逆に助けられることも多かった。

会員拡大の経験など、全体として明るい印象であったが、白熱した議論を2、3紹介する。滋賀支部の代議員は、公害環境問題研究会の不正な運営について、本部事務局に適正な指導をするよう要請した。これに対して、事務局が研究会内部で解決すべきと回答したことで、「不正な内容を具体的に示せ」、「それでは解決しないから問題なのだ」など、やや激しい議論が行われ、結論として、事務局が責任をもつということになった。また、石川支部の代議員が、JAXA 法改定による宇宙開発の軍事利用の阻止について、独立した決議をあげるべきだと再三主張した。他の代議員の支持もあり、事務局としては常任幹事会で別途声明を考えるということで落ち着いた。

もっともはげしい議論になったのは、東京支部代議員から出された、「議案」の「原発をなくし、原発に依存しない社会を築く」という表現から、「原発に依存しない」の文言をなくせという修正意見であった。この表現はある程度なら原発は残ってもよいという曖昧さを与えるというのが理由であっ

た。2日目になって、大会決議起草委員会が1日目の夜に作成した「大会決議」では、この表現はなく、「原発のない社会」「原発の廃止」となっていることを示し、「議案」でも単に、「原発のない社会を築く」とすべきという主張が再びなされた。これに対して、米田事務局長の回答は、JSA の「原発廃止」の意志は明白であり、原案通りとさせてほしい。昨年のような修正動議は出さないでほしい、というお願いであった。しかし東京支部代議員は納得せず、「原発のない社会を築く」とする修正動議を出し、討議・採決にふされた。賛否両方の意見が多数出され、採決の結果、議決権数53名のうち賛成21で否決された。議長団席からは、動議を否決された代議員の怒りと悲しみに満ちた表情がはっきりとみえ、つらいものがあつた。私は執行議長ではなかったので、議決権を行使し、動議反対に手をあげた。理由は、「原発をなくし」で全廃の意はつくされ、「原発に依存しない」は国民の生活スタイルや意識の改革も含めて、広い意味を包含していると考え、訂正の必要はなしと考えたからである。しかし、原発と手を切るというJSAの決然とした意思を示すためには、事務局長は2年越しの議論に終止符を打つ英断を示してもよかったのではないかと今は思う。

いずれにしろ、原発に対するJSAの態度の変化が市民運動をリードするようになり、会員拡大にも結び付いているというのが大会の討議を聞いての感想であり、些末なこだわりを捨てて大同団結、組織前進に向かうことを願う。

第43回定期大会に参加して

個人懇 山口進次

2012年5月26・27日東京・日本大学校舎で行われた、日本科学者会議第43回定期大会に京都支部から代議員として参加し

た。48期活動方針の中で、原発問題が取り上げられ、現在、全機が停止している日本の原子力発電所の再稼動を許さないという

決議がなされた。これは京都に於ける反原発の大きな運動が、この決議に影響を与えたことを支部の代議員として誇りに思えた。

討論の中で、大阪市長率いる橋下維新の会の危険性について日本科学者会議としても、理論武装の必要性があるのではないかと、

また 2008 年 5 月 21 日に成立した「宇宙基本法」が宇宙の平和利用の原則を廃し、軍事利用に道を開き、平和憲法改悪へのお膳立てと位置付けて反対決議を行うことなど、日本科学者会議でも積極的な取り組みを求める発言があった。

「春の学校 in あいち」に参加して

去る 3 月 22 日（木）・23 日（金）、愛知県名古屋にある「ウィルあいち愛知県女性総合センタ」にて開催された「春の学校 in あいち」に参加をした。春の学校への参加は、自分たちが企画した「春の学校」（於：立命館大学 BKC）以来、三年振りである。

今回、私が参加しようと思った理由は 2 点ある。1 つは、やはり交流である。実は愛知県内の JSA 会員（院生・若手研究者）が厳しい状況におかれていると以前聞いていたため、今回、愛知で「春の学校」が開催されると聞いて、その活動がかなり前進しているのだと感じた。そのため、どうやって JSA の活動を前進させたのか、聞いてみたいという気持ちがあったのである。更にいえば、関西と愛知の院生・若手研究者間で、恒常的なつながりを構築したい、という思いもあった。メンバーが固定化すると、月日を経るごとにメンバーの状況も変化するため、いずれは活動が停滞化する恐れがある。そのため、関西と愛知のメンバーが相互交流する必要があると考えている。

2 つ目は、今回の春の学校 2 日目の企画、シンポジウム「脱原発運動と若者」に興味があったからである。私自身、脱原発運動を推進すべきと考えている一方で、近い先輩から脱原発運動に対する「批判」を聞いて以降、確かに今の脱原発運動スタイルで良いのか、という疑問も感じるようになっていた。そのため、私たち「若者」世代がどのように脱原発運動に関与していくべ

きかを、皆で検討したかったのである。

さて当日は、関西からの参加予定者が体調不良等により減ってしまったことは残念であったが、現地では、特に学部生の参加が多く活気に溢れていた。また、即物的な面でいうと合宿を行った「ウィルあいち」の施設条件が素晴らしかった。

内容はというと、これも学部生が多かったためか、かなり新鮮な感じを受けた。JSA の企画はどうしても研究者だからこそ通じる内容になりがちで、「内に籠りがち」な感を受けるのだが、今回の春の学校では逆に学部生が何を考え、何に悩んでいるのか、ということが分かり、初心に返るような気持ちになった。もっとも、人生経験もそれ程積んでいない私たちが学部生にどれだけ有効なアドバイスを送れたかは、自信はないが。

シンポジウムでは、色々と質疑を重ねるうちに、自分自身がどのように原発問題に向き合うのかが重要である、という点で落ち着いた。当たり前に過ぎる結論ではあるが、一方で、脱原発運動を自己の問題と結びつけず単なる「お祭り化」しない、或いは（肯定的な意味で）「葬式行列」のように黙々とデモを行うことも一つの表現手段であり、それは自分が原発問題とどう向き合うかによる、という点が確認できたことは良かったのではないだろうか。

（立命院生分会:KS）

JSA 春の学校に参加して

2012年3月22日から3月23日にかけて名古屋で行なわれた JSA 春の学校に参加してきた。

JSA の春の学校に参加をするのは初めてで最初は勝手が分からずに少々緊張したが、最終的には打ち解けて他の参加者と話ができるようになった。参加者の中の複数名が日頃の研究や博士論文の内容等を報告し、それに関して他の参加者が質問したり議論したりするといった形で進行していった。

JSA に参加している若手の学生・研究者はいわゆる文系の学問をしている人が多いようで、今回の報告も教育学関連の研究内容などが多く報告された。自分の専門は大気物理学なので普段の研究とは縁のない話であり理解の難しい点多かったが、ちょうど維新の会の教育基本条例が話題になっていた時期でもあり、その危険性も含めて多くの議論がなされ、自分も共感できることが多かった。

唯一、小規模水車の数値計算を行なって

いる学生の報告があり、他の発表とはかなり毛色が異なっていたが、個人的には非常に面白く聞くことができた。他にも普段の研究生活や若手研究者を取り巻く社会情勢などの様々な話題が、昼間の報告会だけでなく朝夕の食事や飲み会、その他の時間に多く聞くことができた。

こうやって他の研究者との交流ができたことが今回の大きな成果の1つだったと考えている。また、最終日には東京からの報告者が原発からの撤退を求めるデモが東京を中心に非常に盛り上がっているという報告を聞いた。最近の自分は博士論文に向けての研究で忙しく、原発デモがこれほど盛り上がっていることは知らなかった。理系の研究者は研究室に篋もりがちになってしまうが、社会問題を自らの問題と捉えて可能なことから取り組んでいかなければならないと改めて考えさせられる機会となった。

(京大院生:K.H)

関西技術者研究者懇談会 6 月例会報告

日 時 : 2012年6月3日(日)

14時～17時

場 所 : JSA0 事務所

参加者 : 4名

三通を体験、企業・大学との交流

山口 進次 氏

今月中にも円と中国人民元の直接取引が行われようとしている。先日の円相場は1人民元17円がついていた。中国福州市での現場労働者の賃金は日本円で3.4万～5.1万円位だそうだが定着率は非常に悪いとのこと。福州市にある琉球墓に参拝

した。これは昔、沖縄の人が中国に渡って日本に帰れず、現地で亡くなった人たちのものである。今でも現地の人が墓守をしてくれていた。また産業振興のため市内には沖縄事務所が設けられており、沖縄と中国の古くからの交流を知った。

一昔前、中台が激しく反目しあった時代を知る者にとって信じられないほど、近年中国と台湾の関係は劇的な変化が起こっている。三通というのがその一つで、2008年台湾政府が通商・通航・通郵を許可した。今では年間100万人以上の中国人が

観光のため台湾を訪れる。貿易でも最大の輸出相手は中国である。言語面でも台湾では、これまで国際的にほとんど通用しない「注音字母」(ウェード)式を使っていたが、政権交代を機に、一部を除いて大陸と同じ「拼音字母」(ピンイン)方式に変更してしまった。

台湾は概して親日的で、私は知らなかったが昨年の東北大震災の世界最大の支援国のようなのだ。

討論

- ★ 中国では工業化のために農地を潰して工場を建て農民を労働者に変える政策がとられている。

- ★ 中国では暖かい食べ物をとる習慣がある、ここへ日本のコンビニは冷たいおにぎりを売り込む計画を立てている。
- ★ 台湾でも中国でも日本の企業の進出が激しい。
- ★ 中国のミニバイクは電動式が多い。

これからの日程

7月1日(日)

わが国の職業ガンの労災認定

西田陽子 氏

注：8月の例会はありません

(文責 山口進次)

『日本の科学者』読書会 6月例会報告

『日本の科学者』読書会6月例会は、6月8日(金) 15:00~17:30、支部事務所にて開催された。4月号特集「科学者の社会的責任」を取りあげた。6名が参加した。

長田論文「原発における科学者の社会的責任」を宗川が紹介した。本論文ではこれまでの科学者会議の社会的責任論を概観した上で、昨年の東京支部の決議について述べられていて、地に足の着いた論述となっている。昨年のJSA 全国大会の決議で東京支部からの修正提案が葬られたが、それに私も一役買う結果となった。いまでも慚愧に堪えない。

沢田論文「被曝実態に基づく放射線影響の研究」を菅原さんが紹介。米国や日本政府は一貫して放射能の健康被害を小さく見せようと腐心してきた。広島・長崎の脱毛や下痢を放射能による症状と見るのは当然で、そこから被曝線量が推定できるはずであり、被曝は外部被曝だけでなく内部被曝を含むと考えると合理的に説明できる、と筆者は一貫して主張してきた。今度の福島原発事故でも内部被曝がこれから大きな問題になるだろうと警鐘を鳴らしている。

豊島論文「『御用学者』批判ができない大学社会」を鈴木さんが紹介。福島県立医大の山下氏などは、筆者によるとさしづめ「科学神官」「科学僧官」であるという。筆者は大学論、知識人論の練り上げを主張している。

私の感想。もともと国立大学は明治期に国の政策(富国強兵)を押し進めるために設立されたことを忘れるわけにはいかない。大学法人化は権力にとっては軌道修正にすぎない。大学人の多くが権力に奉仕するのは、かれらが権力の末端に連なっているからで、いわば当然だろう。科学者会議の会員は、自分たちは権力への反乱分子であるということを深く自覚する必要があるのではないか。今問題にしている原発に関する科学者の社会的責任を云々する場合、科学者とは誰なのか、そしてどのような責任を取るのか、を明確にする必要がある。ここでの「科学者」はわれわれ科学者会議のはずだ。科学者会議は社会に対して原発事故を未然に食い止められなかったことに対して責任を取らなければならない。それにはまず、反省から始めるべきだ。反省があれば責任を取るための次の行動はありえ

ない。反省なしにいろいろ発言するのは責任
説教を垂れていることになる。科学者会議が
今そうっていないか、深く自省すべきだ。

を取ったことにならず、ただ社会に対してお
(宗川吉汪)

★ ★ ★ ★ 研究会や行事などの案内 ★ ★ ★ ★

JSA 若手「夏の学校」2012 のご案内

梅雨に入り、毎年恒例となっております若
手夏の学校のご案内をする季節がやってまい
りました。今年は 19 総学と併催という形を
取り、夏の岡山にて 2 泊 3 日での開催となり
ます。

現在、近畿の若手・院生が主体となって実
行委員会を立ち上げ、準備を進めています。
内容として、19 総学内部の若手分科会の開催、
また各地の JSA 活動の交流会、修論・博論体
験交流などを予定しています。

若手・院生が気兼ねなく交流でき、今後の
活動と研究を進めていく一助となる企画にす
るべく、実行委員会一同はりきって準備を進
めております。ぜひ、多くの若手のご参加を
お待ちしております。なお、企画の詳細や参加
申し込みについては、来月発行の 2nd サー
キュラーをお待ちください。

JSA 若手「夏の学校」2012 in 岡山

テーマ：東日本大震災後の私たちの学問と社
会運動

日時：2012 年 9 月 14 日（金）～16 日（日）

開催地：岡山大学津島キャンパス一般教育棟
（〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1）

宿泊先：ピュアリティまきび（〒700-0907 岡
山市北区下石井 2-6-41）

参加費：1 万 5 千円（予定）

※総学参加費込み・現地までの交通費別
問い合わせ先：

jsa_summer_school2012@yahoo.co.jp

（JSA「夏の学校」2012 実行委員会）

『21 世紀社会の将来像と道筋』学習会

日本科学者会議 21 世紀社会論研究委員
会によってまとめられ、昨年 11 月に本の泉
社から刊行された『21 世紀社会の将来像と
道筋』の学習会を開催します。

この学習会では、執筆者の一人である
鶴田満彦さんをお招きし、鶴田さんが執筆
された「第 2 部 各論」のうちの「21 世紀
における経済システムの変革」を中心にし
て報告いただき、議論を深めたいと思いま
す。開催要領は以下のとおりです。多数の
会員の方々のご参加をお待ちしています。

日 時：2012 年 6 月 26 日（火）18:00～20:30

場 所：キャンパスプラザ京都 6 階 龍谷
大学サテライト教室（京都中央郵
便局の西側、ビックカメラの向か
い）

参加費：無料

共 催：日本科学者会議龍谷大学分会・日
本科学者会議京都支部

『日本の科学者』読書会 7 月例会

7 月読書会を以下の要領で開催します。5
月号の特集から 2 本、たまたま志岐さんが「談
話室」をお書きになったので、その紹介、な
らびに C4 光合成についての論文を紹介しま
す。ふるってご参加ください。

テーマ：5 月号の論文から

日時：7 月 6 日（金）15:00～17:30

場所：支部事務所

担当：滝川論文（富田）、藤井論文（鈴木）、
談話室（志岐）、谷口論文（宗川）

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 支部幹事会だより ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

5月20日の支部大会の時の第1回幹事会と
6月8日開催の第2回幹事会の報告です。
支部定期大会、全国大会、科学者集会実行
委員会などの報告は記事をご覧ください。

1. 2012年度支部役員

幹事：市井吉興、上野鉄男、上條亮一、加賀
美太記、菅原健二、鈴木博之（会計担当）、
富田道男（代表幹事）、細川孝、前田耕治、
三浦正行、宮嶋邦明、山口進次、
山本正志、宗川吉汪（事務局長）

会計監査：由井浩

全国参与：志岐常正

全国幹事：富田道男

全国代表幹事：安斎育郎

全国常任幹事：上野鉄男

『日本の科学者』編集委員：布川淑

2. 転入会員

左近拓男さんが秋田支部から転入（龍谷大
学）、6月より

3. 支部現況

会員数 286（一般会員 257、院生・学生会員
29） 読者 6

4. 2012年度会議の日程および会議の持ち 方について

2012年度の幹事会、事務局会議、ニュース発
行の日程を決めました。日程表をご覧ください。
一般会員のみなさまにも是非幹事会にご出
席ください。

今年度の事務局員、ニュース担当者は以下の
通りです。

事務局員：菅原、鈴木、富田、山口、山本、
宗川

ニュース発行担当者：加賀美、菅原、鈴木、
山本

5. 分会の設置について

新しい規約のもとでの分会を設置すること
になりました。正式には次回以降の幹事会
で決定します。予定されている分会は以下
の通りです。

職場分会：京大経済分会、京大宇治分会、
京大医学分会、工繊大分会、龍谷分会、橘
分会、立命衣笠分会、立命 BKC 分会、な
ど

階層別分会：個人会員懇談会、若手研究会、
学部生研究会

専門別分会：原発問題研究会、未来社会研
究会、介護福祉研究会、など

分会設立条件は、大会での議論をふまえて、
3名以上の会員でうち代表者1名、です。
会員は複数の分会に所属できます。ただし、
代表者を兼ねることはできません。

6. その他

支部幹事会として原発再稼働反対声明を出
すこと、「人体の不思議展」損害賠償請求
事件に関して大阪高裁への請願の団体署名
を承認した。

（文責 宗川吉汪）

2012年 幹事会	(18:00~20:00)
第1回幹事会	5月20日(日)
第2回幹事会	6月8日(金)
第3回幹事会	7月6日(金)
第4回幹事会	8月3日(金)
第5回幹事会	9月7日(金)
第6回幹事会	10月5日(金)

2012年事務局会議	(13:30~15:30)
第1回事務局	6月22日(金)
第2回事務局	7月20日(金)
第3回事務局	8月24日(金)
第4回事務局	9月21日(金)
第5回事務局	10月19日(金)
第6回事務局	11月16日(金)

大飯原子力発電の再稼働に反対する

関西電力大飯原発 3、4 号機再稼働について、野田首相は 6 月 8 日、記者会見で「国民生活を守る」ためとして「再起動すべきというのが私の判断」と表明し、首相として再稼働実施の最終判断を示した。さらに、再稼働は今夏に限定したものではない、とも述べた。

福島第一原発事故の真相究明も未だなされず、原子力規制庁も設置されていない状態でどうして「もし福島を襲ったような地震と津波がおこって、万が一、全ての電源が失われるような事態でも燃料損傷はおこらない」と言い切れるのか。大飯発電所には万一の事故対策で重要な役割を果たす免震重要棟はなく、フィルター付きベントもなく、津波に備えた防潮堤のかさ上げ工事すら済んでいない。自ら決めた暫定的な安全基準も満たしていない状態で大飯原発の再稼働に踏み切ろうとしている政府の姿は異常である。守っているのは国民の生活ではなく、「原子カムラ」の利権ではないか。

野田首相は、根拠も示さずに「事故を防止できる安全対策と体制はととのっている」と断言した。これこそが「安全神話」で、それは福島原発事故で崩壊したのではないか。いったん原発の過酷事故が起これば、周辺の土地は放射性物質で汚染され人の住めない状態になる。福島県では、1 年以上経た今も、数万の人たちが帰宅できないでいる。政府の見通しですら、このままでは 10 年後でも大熊町住民の 81%が、双葉町では 49%が帰還できないと予測している。

原発事故で琵琶湖が放射能汚染されれば、滋賀県、京都府、大阪府は甚大な被害を受ける。大飯原発事故による放射能拡散予測によると、京都府内でも広範囲に「屋内退避」や「ヨウ素剤の配布」が必要になる。

5 月 27 日に開催された日本科学者会議第 43 回定期大会で、過酷な原発事故を二度とくり返してはならない、原発は致命的な欠陥をもつ技術でその使用は断念すべきである、として、原発のない社会を実現するために国民的共同を進めよう、と訴えた。

科学を人々の暮らしに役立てることを目的に行動する私たちは、今回の野田首相の大飯原発再起動発言に強く抗議するとともに、大飯原発 3、4 号機をはじめ停止している 50 基すべての原発の再稼働に反対することをここに表明する。

2012 年 6 月 8 日

日本科学者会議 京都支部 幹事会

<二宮厚美氏の講演>

6月9日、「橋下・維新の会の本質を考えよう……護憲の立場から……」のテーマで二宮厚美神戸大学名誉教授の講演があった。二宮氏は「最近の世論調査でも下降気味とはいえ橋下・維新の会は、民主党・自民党を引き離して50%以上の支持率を持っている。次期衆議院選挙が何時になるかは不明だが、近畿ブロックで京都を含め、橋下・維新の会の本質を学習し、広く警告を発することは学者としての喫緊の課題」とうったえ、大阪でおきている「異常事態」について詳しくお話をされた。

①橋下主義とは何か？

a. 橋下に体質的な略奪型競争第一主義と独裁主義、b. 橋下・維新の会を貫く反動的かつ急進的な新自由主義、であり、

②基調にある略奪型競争主義とは、関西広域連合による資源・財源等の大阪集中構想であり、彼の独裁主義とは「強いものが勝つ、勝った者が正しい、負けた者は従え、従わない者は切る」、「選挙勝利者＝民意体现者」と「選挙＝白紙委任論」という言動に現れている。

③橋下流新自由主義とは、福祉国家から競争国家への転換、大阪府・市にみる危険な強行体制づくり、職員・教育二条例の反憲法・人権否定、間違っていない一歩も後退しない・敗北を認めない、という姿勢。

公務員バッシング等がなぜ受け入れられるか？「大阪の貧困化から生まれる広汎な貧困層をとらえる閉塞感と脱出願望、貧困・格差社会化のなかから生まれる『さもし根性』、『アンチ東京』意識も土台に。

<木戸衛一氏の講演>

5月26日の「憲法記念春のつどい」では、ドイツ現代政治を研究している木戸衛一大阪大学院准教授が、『『維新の会』がめざす国家像と日本国憲法―ナチス登場の教訓から学ぶ―』と題してお話された。

ドイツにおけるナチス台頭

第一次世界大戦後のヴァイマル共和国体制打破を掲げナチスが登場したが、その背景には、「背後からの一突き」（当時ドイツの窮状下で右翼政党が、ヴァイマル共和政や左翼政党、ユダヤ人等を批判する際に好んで使ったスローガン）、「ボルシェヴィズムの脅威」（ソ連と共産党・社会民主党勢力）など、既成の政治体制への不信と新しい政治勢力への願望があった。

ナチス暴力支配の土台に、ハンス・フランク（帝国法律指導者、ポーランド総督、ユダヤ人抹殺の執行権者）など、多数の学者・法律家の存在があった。ついに1933. 3. 24 ナチスは、授権法を成立させ、第2条で「政府が議決した法律は、憲法に違反できる」とした。ヒトラーは「私は独裁者ではない。民主主義を簡略化しただけだ」と言う。

橋下「ハシズム」現象の位相

大阪における特殊性と一般性＝大阪市長・橋下徹の個人的資質と背景としての「国政における二大政党の閉塞状況」がある。

橋下は、2012. 3. 5 東日本大震災のがれき受け入れに関し記者団に「憲法9条は、他人を助ける際に嫌なこと、危険なことはやらないという価値観。国民が9条を選ぶなら僕は別のところに住もうと思う」と憲法9条敵視の発言をしている。

「希望は戦争」？

最後に木戸氏は、赤木智弘氏の「持つ者は戦争によってそれを失うことにおびえを

抱くが、持たざる者は戦争によって何かを得ることを望む。…流動性が存在しない格差社会においては、もはや戦争はタブーではない。それどころか、反戦平和というスローガンこそが、我々を貧困の中に押しとどめる「持つ者」の傲慢であると受け止められる」（『丸山眞男をひっぱたきたい 希望は戦争』『論坐』2007. 1）をとりあげているが、赤木氏は「若者を見殺しにする国」（双風舎 2007. 11）で『丸山眞男をひっぱたきたい』ができるまで どうすれば貧困層を救い出せるのか 思いやりのある社会への希望」と鋭い問いかけを続けており、ナチス登場の背景としての「既成の政治体制への不信と新しい政治勢力への願望」と同一視することには無理がある。

<望田幸男氏インタビュー（大阪民主新報 2012/03/09）から>

（佐藤圭子編集長）橋下・維新の会はナチス・ドイツ時代のヒトラー政権のようだという声が聞かれますが。

望田 ナチは（国民社会主義ドイツ労働者党）、1919年の結党当初は街頭一揆主義をとりますが、…1926年頃から合法闘争中心に転換し、反資本主義、反ユダヤ主義、反共産主義、反自由主義などのスローガンを掲げました。勢力が小さいうちは合法闘争と並んで反資本主義を前面に出しました。党勢拡大や世界恐慌の波に乗り、30年には一気に107議席、第2党に躍進します。注目すべきは、この時点から反資本主義よりも反共産主義の姿勢を前面に出してきます。

それまで資本家は、ナチスの反資本主義的言動に不審感を抱いていました。しかし他方で彼らは、当時は社民党も共産党も前進し、ロシア革命からまだ10年ぐらいいかたっていない中で、深い危機感を抱いていました。…こうした中でナチスは反共産

主義を前面に打ち出し、財界もナチスに接近、豊富な資金が財界からナチスに流れ込み、32年には第1党となって党首のヒトラーが合法的に首相になりました。31年から第2次世界大戦が起こる39年まで、ナチス政権は国民から圧倒的に支持されます。象徴的なのは、この政権が再軍備と軍需産業の拡大によって失業者500万人を解消したことです。そしていよいよ戦争に突入。このように、誕生から滅びるまで、ナチスは何回もイメージを変転させつつ、ドイツ国民の支持を確保していきました。

一般的に保守・右翼は現状を保守するものですが、ある条件下では、体制の危機的状況の下、現状打破を標榜することで大衆の共感を集め、大衆の左傾化を押しとどめつつ、大局的には体制を守るものです。

橋下・維新も、体制維新を叫びつつ、大阪市職員、教職員、労組、既成政党、霞が関という敵を設け、…そこに恨みつらみを集中させていく。「右」からの現状打破論の常套手段です。

ヒトラーも、当時の最新のマスメディアの利用を工夫しました。マスコミは一方で、橋下支持＝現状打破、橋下不支持＝現状維持というイメージを滑り込ませ、他方で視聴率を上げるために報道することで橋下支持を広げるという構図にはまっています。

編集後記：国会の事故調の議論を聴いて、ガッカリした。まともな調査結果がでるとはとても思えない。それにしても、東電は不可解な会社だ。事故を起こした張本人なのに厚顔無恥で、真摯さが全くない。津波が想定外なのはともかく、多くの技術者や研究者を抱えているのだから、全電源を消失した後、どうなったか、どうすべきかは分かっているはずなのに公表しない。わが国が当面している閉塞状況を打開するためには、自然エネルギーへの変換が必至である。なのに、東電や関電は原発に固執している。政府にも頼れない。我々はあきらめることなく、粘り強く前進しなければならない。（菅原）

